

建築工事特記仕様書
高強度せん断補強筋Jローナ785 (SABTEC評価 15-01)

1. 一般事項

(1) 適用範囲

- 1) 本仕様書は、Jローナ785を使用する鉄筋コンクリート造、鉄骨鉄筋コンクリート造、プレストレストコンクリート造の柱、梁の施工に適用する。
 - 2) Jローナ785は、第三者機関の技術評価を取得した製造工場で製造した785N/mm²級高強度せん断補強筋とする。
 - 3) Jローナ785は、JFE条鋼株式会社が生産する大臣認定(認定番号MSRB-0096)の高強度せん断補強筋用異形棒鋼 (JH785) を用いる。
- (2) コンクリート
- 1) 種類： 普通コンクリート
 - 2) 設計基準強度 (F_c)： 21N/mm²以上かつ60N/mm²以下
- (3) 共通事項
- 本仕様書に記載なき事項は、JASS5に準拠する。

2. Jローナ785の品質

(1) 化学成分

C	Si	Mn	P	S	C+Mn/6
0.30~0.38	0.50~1.50	1.00~1.50	0.03以下	0.03以下	0.68以下

(単位:%)

(注) 炭素当量Ceq=C+Mn/6

(2) JH785の諸元

表記	公称直径 mm	公称周長 cm	公称断面積 cm ²	単位質量 kg/m
D10	9.53	3.0	0.7133	0.56
D13	12.70	4.0	1.267	0.995
D16	15.90	5.0	1.986	1.56

(3) Jローナ785の機械的性質

試験片	降伏点 又は耐力 (N/mm ²)	引張強さ (N/mm ²)	伸び (%)	曲げ性	
				曲げ角度	折り曲げ 内法半径
鉄筋母材	785以上	930以上	8以上	180°	1.5d
せん断補強筋溶接部	785以上	930以上	5以上	-	-

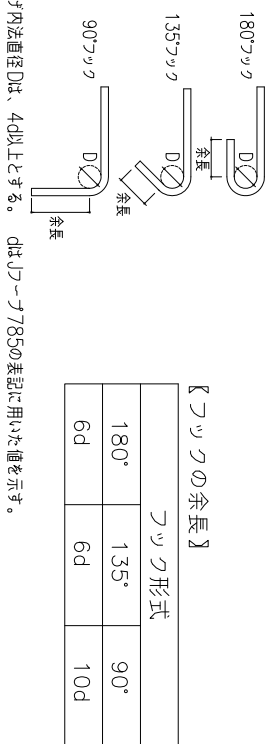
(注) 1) 試験片はJIS Z 2201の2号試験片、伸び測定の間隔距離は8Xdとする。 d:公称直径
2) 鉄筋母材の曲げ試験では、曲げられた外側に亀裂が生じてはならない。

3. Jローナ785の品質

(1) 一般事項

Jローナ785の溶接および折り曲げ加工は、それぞれJローナ785標準製造要領書による。

(2) Jローナ785折り曲げ加工末端部の形状・寸法

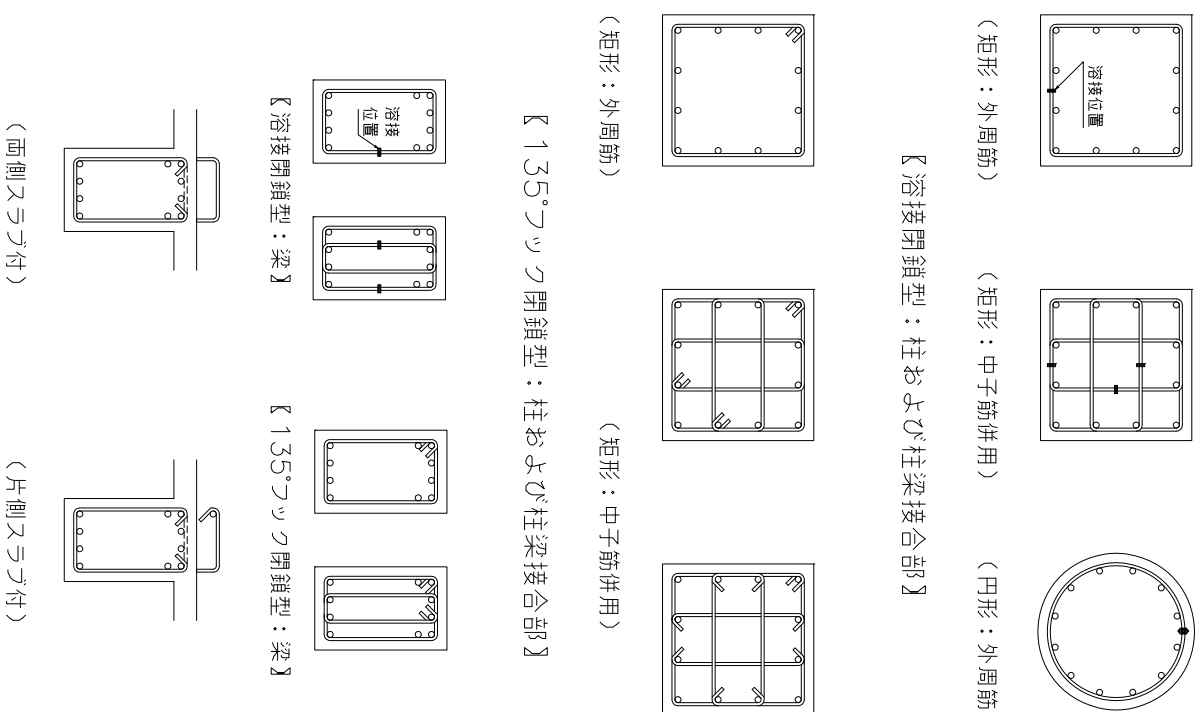


(3) Jローナ785の加工できる一辺の寸法

形状	表記	製品	
		最小寸法	最大寸法
四角形	J10	短辺140mm以上	周長 8,000mm 以下
		かつ周長1,000mm以上	
		短辺140mm以上	
多角形	J13	かつ周長1,100mm以上	以下
		短辺200mm以上	
円形	J16	かつ周長1,600mm以上	直径 400mm以上 2,500mm 以下
		短辺200mm以上	
		直径400mm以上	
		直径600mm以上	

(注) Dは呼び名に用いる値、許容差は製品の外形寸法に適用する。

4. Jローナ785の加工形状



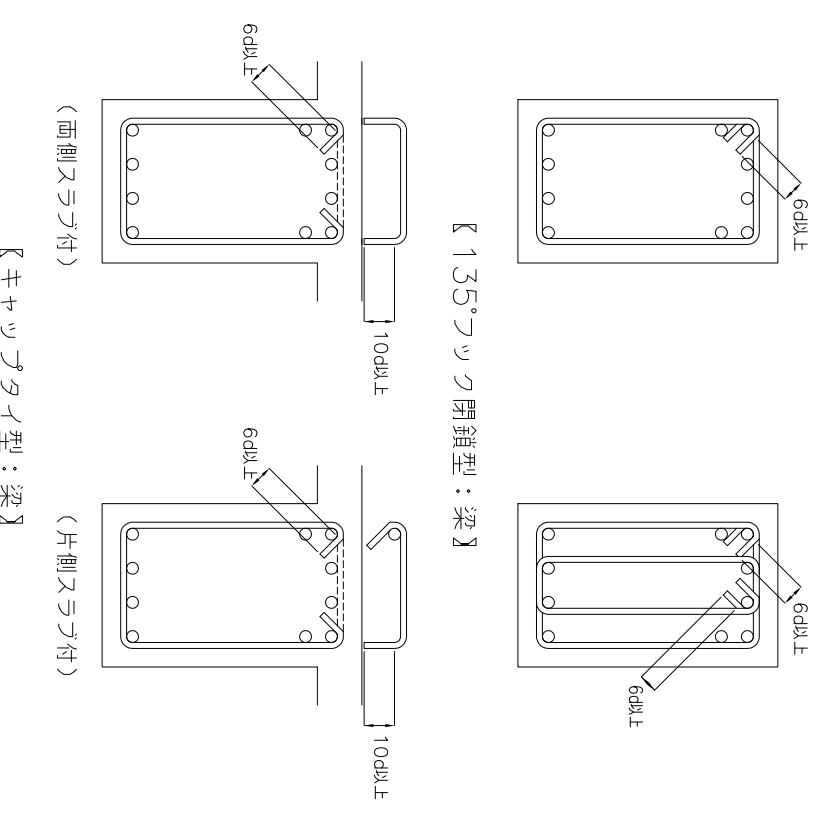
5. 組み立て

(1) 組み立て

Jローナ785は設計図および施工図に従い、正しく配筋し、コンクリートの打ち込み完了まで移動しないよう、十分堅固に組み立てる。ツツ付単筋を用いる場合は、ツツ付位置を交互に配置する。また、溶接閉鎖形筋の溶接面も交互に配置する。

(2) あばら筋

単筋ツツ付のあばら筋を使用する場合、あばら筋の末端には、(2)に規定のツツをつける。90°ツツをつける場合は、面側および片側スライとなる梁に用いるU字形キャットライに限る。



6. その他の施工上の注意事項

(1) 現場施工および製作

- 1) Jローナ785は現場溶接を行ってはならない。
- 2) 主筋等の溶接に際して、Jローナ785にアークスライ等の過度の加熱を行ってはならない。
- 3) 曲げ加工したJローナ785を曲げ戻したり、曲げ位置を変更するような再加工を行ってはならない。
- 4) JH785の切断は、シヤーカー、電動のこにより行う。

(2) 保管

- 1) Jローナ785は直接地上に置くことを避ける。
- 2) 雨、潮風などにさらされず、さみ、泥、油等で汚さないようにする。

(3) 清掃

- 1) Jローナ785の組立に先立ち、コンクリートとの付着を妨げるおそれのある浮き錆、油類、さみ、泥等は除去する。

記号	改正事項	年月日	承認



承認	製図	工事名称	NO.	全	枚
		図面名称	特記仕様書(高強度せん断補強筋: Jローナ785)		A1
		縮尺	作図	年	月
				日	